

## キャリア支援を考える 4 : 「自由に生きる」と言う無責任

著者	川喜多 喬
出版者	教育新聞社
雑誌名	教育新聞
号	2543
ページ	3-3
発行年	2005-05
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/8748">http://hdl.handle.net/10114/8748</a>

# キャリア支援を考える

— 4

キャリア・デザインという言葉は和製英語だろうといわれることがある。しかし、career design という英語は50年代から現れている。

一方、キャリア・アップなるものの方は、私は英米の人事管理の本では見たことがない。

キャリア・アップという言葉は日本の高度成長期からバブル経済までの「就職情報」の氾濫をもたらし、転職者の手になるものだろう。高い地位に昇る、高い給与を手に入れる、好き放題に暮らせる生き方がある。我慢していると、どこかに「王子様」がいる。「青い鳥」がいる。こういう甘いさやきは、ある

意味では、人の目を開かせることがあったかもしれない。

しかし、世界に広がる多様で多数のチャンスを目のあたりにしたり、目のあたりにしたと思ひこんだりして、いくらでも自分で選択できるんだ、と思ひこんだ人々には、また別の不幸も待っていた。

おまけに誰が言いたしたのか、バブル経済時代から「自己実現」だの「自分探し」だの「自分らしく」だのという言葉も氾濫し始めた。君たちには無限の可能性がある、君たちには選択権があるのだ、自由に選びたまえ、自分探しをするんだ。これほど無責任なけしきはない、と私は思う。

アメリカのニューヨークの某ホテルで昼食をとったことがある。コーヒーにされま

トが10いくつもある。ようやく適当に選ぶと、ミルクかレモンか、と聞く。ミルクだと言つと、ミルクにも3種類あるからどれかを選べ、と言つ。面倒になつてきてコーヒーと言つと、

## 「自由に生きろ」と言う無責任

これまた20ぐらいあって、面倒で足を踏み出せなくなつてしまふ。ろくなキャリアが歩めなくなると、ペパシかコークかクラウンか。コークと言つとクラシックかニューかダイエットか。クラシックという今度はサイズを聞いてくる。ええい、水！と言つとミネラルウォーターも数種類。部屋に帰ると90チャンネルのケーブルテレビが入っている。今、何をやっているかを知

るために、一局10秒ずつサーチしたつて全部チェックするのに15分かかる。あれがよかったか、と見直すのにまた数分かかって、見つけた時には別の番組に変わっている。

選択肢が多い時代は適切な選択の訓練を受けていなければ、彷徨を続けたり、たじろいで足を踏み出せなくなつてしまふ。ろくなキャリアが歩めなくなると、ペパシかコークかクラウンか。コークと言つとクラシックかニューかダイエットか。クラシックという今度はサイズを聞いてくる。ええい、水！と言つとミネラルウォーターも数種類。部屋に帰ると90チャンネルのケーブルテレビが入っている。今、何をやっているかを知

法政大学キャリアデザイン学部教授 川喜多 喬

高度選択社会への単なる反動でキャリア統制されては、困るのである。